石櫻新聞

発行所
盛岡市仁王田圃
岩手高等学校
岩手中学校
出版委員会新聞部
責任者　高橋純一
印刷所
岩手日報社

六年間の学び舎あとに

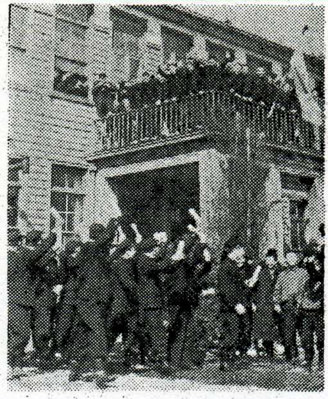
第八回卒業証書授與式

岩手高等学校第八回卒業証書授与式は、例年の如く県下各高校のトップを切って、去る三月一日本校講堂で挙行された。この日は、新卒業生の門出を祝う如く晴れ上り、春光燦々と照る中を、新卒業生及びその父兄が式場へと参集した。式は滞りなく進められ、来賓として臨席された県知事代理、盛岡市長代理、教育長代理、半沢市立校長より、新たな学窓へ、又直接実社会へと巣ち行く新卒業生百一名に対し、愛情と励しのこもった、はなむけの言葉が贈られた。

パイオニアの精神を持て

—校長告辞—

嘗って新渡辺稲造氏が来校された時、氏はパイオニアの精神こそ、何事にのぞんでも忘れてはならぬ物だといわれた。私は今百一名の卒業生に、改めてこの事を強調したい。これから大学で、或いは実社会で、諸君はいろいろの事にぶつかり、そして考えるであろう。その時にあたって、諸君は本当に自分のものを持っていなければならない。道徳、人生感。それは自分でつくり出すものなのです。唯の水を飲んでも、蛇はそれを毒とし牛は乳とする。自分で、独力で道を開き生きなさい。



◇第八回卒業式受賞者

優等賞　角館守、鎌田耕一郎

皆勤賞　小野泰三、小林誠穂、吉田康男、根田幸悦

精勤賞　杉村礼司、佐藤信吉、竹花国夫、鎌田耕一郎、兼平甚三郎、立花悦夫、熊谷暢利

日本私立中高連合会理事長表彰　角館守

論説

規約審議会をつくれ

本年度の石桜会活動、特に総務委員会及び各常任委員会の活動をふりかえってみると、一部を除いてはお世辞にも活発であったとはいえないようである。

先日行われた卒業生の座談会にもこの活動不振をつく多くの意見が出された。その不振の原因が現行規約の不備欠陥にあるのではないかとの強い声はやはり注目されねばならないと思う。

一体規約改正の声があがったのは既に久しい。

校友会誌〃石桜〃の会報欄をみると歴代の各委員長らが既に規約改正を叫んでいる。石桜会活動が比較的活発であり華やかな時代であった数年前からこの声があがっていた事は一体何を物語るのか。

今や規約改正の問題は石桜会幹部にとって最大の関心事となっている。中には、今までもこれでやってきたのだから今後もやれぬ筈はない、徒らに騒ぐのは賢明でないとの改正反対論もある。だがこの論には進歩性がない。

成程いかに完璧の規約をもってもその運用を誤り、又は会員の熱意に欠くるところあらば何にもならない。

しかし現状は、熱意をもっているが、規約にはばまれて存分の活躍が不能に陥っているところに問題がある。

例を出版委員会にとる。出版委員会は各ホームルームから選出された委員で以って構成されているしかしこれら委員が全て出版の仕事に興味をもち熱意をもってるかといえば必ずしもそうではない、限られた一部である。中には僕は自らすんで委員になったのではないからなどと公言してはばからない者もある。こういう出版の仕事に不向きな者は委員にしないほうがよいのだが、現行の選挙制でゆく限りこの様な委員の出現は防ぎきれない。又選挙制だから当然委員の交替が伴う。新委員は仕事をやれない。これでは新聞などの伝統が崩れる。そこで委員以外の誰かが狩り出されるという結果になるのである。出版委員会がこういう無理をしなければ仕事をやってゆけないなどという事は規約設定当時は夢想だもされない事ではなかったろうか。

毎月例会を持つべき筈の総務委員会も今年度はたった二回の開会に終っている。これも規約とは随分距離があり過ぎる。又学習委員の某君は学習委員会は、何をすればよいのか分らないといっている。委員会の性格が不明瞭なのである、何をやるべきかが分らないでは話にならないではないか。例を挙げれば限りがない。我々は規約の規定と活動の実際とがかくも遊離してるのは放置さるべきではないと思うのである。規約は空文であってはならない。

現行規約は流石に種々の長所をもっている。しかし設定以来既に六年は経過している。六年もすれば大ていのものは色あせる。憲法すら改正論が出てるではないか。この変化の現状に添うようにわが現行規約もやはり検討さるべきではあるまいか。この検討の機関として規約審議会を早急に設けることを提唱するものである。（Ｔ）

学校行事予定

▽学期末考査始まる……三月九日
▽終業式……三月十五日
▽春休み始まる……三月十六日
▽中・学卒業式……三月二十一日
▽新学期始まる……四月九日

日本育英会県支部長表彰
田中義男

石桜会功労賞　田中義男、板垣隆夫、小泉務、田口節雄、平野喜三、小野寺宏、近津義一、久松良助

功労賞受賞者決定す

去る二月二十日の合同会議において各ホームルーム及び各委員会より選出された候補者中から多数の支持を受けた、近津君以下十一名が石桜会功労賞受賞候補に選出され、翌日の職員会議で審議の結果左の二名に決定した。

第三十二号　近津　義一
第三十三号　近松　良助

なお、近津君は三十年度出版委員長として、石桜新聞の編集作製及び会誌〃石桜〃の発刊に多大な業績を治めた事により、又久松君は化学部気象班員として、三年間一日も休むことなく、気象観測を続け、その努力は生徒の模範とすべきであるとしてその功績がみとめられたものである。

創立三十周年

記念行事行なわず

大正十五年三田義正翁によって中学校として創立された本校も歴史の流れと共にすでに二十九年の歩みを続け、その間、昭和二十三年には教育制度改革に伴なう高等学校を設置し、多数の人間を社会に送り出して来たが、いよいよ今年は三十周年を迎える事となった。

ところが三十周年記念行事は、行わないとのお話があった。これに対して生徒間にはやる方がよいではないかとの声が相当見受けられた。それに取り止めの理由も明確でなかったので、この点を校長先生に伺ってみた。

校長先生談『取りやめの理由は二十五周年記念もやっており、経費が三十万円近くもかかるからです。これに用する費用を校舎、自転車置場の増築、相根の完備等に使用した方が遙かに有意義でしょう』

石桜各委員会

事務引継ぎ行わる

石桜会事務引継ぎは十二月二十四日講堂において行われ、四月までの新役員が左の通り決定した。

（　）内は旧役員

総務二Ａ宇土沢広司（鎌田耕一郎）
生活二Ｂ赤沢征夫（広田英正）
学習二Ｃ船越雄彦（岩間健治）
出版二Ｃ高橋純一（近津義一）
図書二Ｃ佐藤和平（工藤邦夫）
文化二Ｂ角掛勝彦（松本和雄）
体育二Ａ村川吉兵衛（小野寺宏）

この日、新文化委員長の角掛君が機械的な事務引継ぎへの反省の弁、中学三年の積極性を望む弁、今後の抱負などを行った他は、皆一言二言の簡単なあいさつ程度に終って了った。

授業料値上げせず

高校、大学の授業料値上げは全国的なものだが岩手県でも公立高校授業料の値上げが問題化し、県下公立高校は授業料値上げ反対の旗じるしのもと連合を作って県の予算措置に対処して来たが、このほど値上げが決定した模様である。

私立である我校は直接にはこの問題に関係はないが、生徒間には学校当局に公立の値上に便乗して値上げする意向がないかとの不安があった。そこでこの点を学校長に問いあわすと、値上げは行わず従来通り、中一（現在）を除いては一ヶ月千百円のままにするとの話しである。だが三十一年度新入生は今年、中一の値上げに準じて千二百円とするとのことであった。なお現中三は成績劣等以外高一となる訳だが、その際はやはり高校新入生となるので千二百円の対称となる筈。

その後の授業料納入状況

かねて学校当局は授業料滞納者一掃のため規約の厳正なる適用を計り、滞納した場合は停学、退学の強行措置を講ずると発表したがその後の納入状況はすこぶる良好で、二月十五日現在、九割の者が一月分を完納している。二月分は完納、未納が半々程度、三月分は未だ納入者百名弱の少数である。しかし全般的に昨年よりははるかに良好である。中学と高校においては総じて中学の方が成績よく、それも低学年になる程よいようである。

県高新連総会開かる

昨年七月末の役員校改選で連盟長校となった本校は、その任期切れに伴い、去る二月五日、第四回定例総会を事務局所在校である本校第二十二教室において開催した。

会は加盟高校十校三十余名の出席により行われ、連盟長の一般情勢報告、会計報告に次いで、質問が行われたが、たいした問題もなくこれを了承し、自由提案に移った。ここで連盟費滞納問題が討議され、結局連盟費滞納は連盟の活動を停滞させるものであり、又滞納校は連盟に対する熱意に欠けるものとして、三十一年度より二期間滞納に及んだ加盟校は自然脱退と認め、その籍を除くことに決議した。

又、連盟費納入方法も今後は県下各ブロックにおかれている理事校がブロック毎に収金し、事務局に送る事に決定した。

次いで役員校改選が行われ、左のように決定した。

連盟長校　松浦　好（盛岡二高）
副連盟長校　高橋純一（岩手高）
〃　菅原信男（一関二高）
会計監査校　館沢カヨ（市立高）
〃　猪原　均（紫波高）
書記校　佐々木幹男（盛岡一高）
〃　菅原スミ子（花泉高）

午後からは岩手日報編集局次長渡辺武氏を講師として御招きし、学校新聞のあり方等について有意義な講演を聞き、二時過ぎ閉会した。

校外短信

▽最後の解答

S高校で化学の時間にN君が先生より『硫黄の化合物の分子式を五つあげよ』と云われ、どうやら四つまではあげたが、どうしても残りの一つが出てこない。先生に『あと一つ』と云われ頭をひねっていたが、考えたあげく〃SOS〃と名答ならぬ迷答をやったそうな

—山形東高新聞経由—

▽親孝行

K高校のある生徒曰く『自分の親に心配をかけることは、これ親不孝なり。故に通信簿は親に見せないことにしてます』とは親を思う心この上なし。本校にもこんな親孝行な生徒は居りませんか？……

—黒工新聞経由—

▽坊主万才

我校では、一時大いに長髪問題でさわいだことがあったが、さてWL高の女生徒が云うには長髪の男は大嫌い。理由を論じつめれば、丸坊主は清潔で男性的ミリョクがあるそうな？　諸君よ、夢にも髪を長くしたいなどと考えてはなりませんぞ。

—I高新聞発—

本年度最後の

模試実施さる

本年度最後の第五回校内高校模擬試験は去る十二月十六・十七日の両日、百五十六名（高三　九七名、高二　二六名、高一　三三名）の受験者を集めて講堂において実施された。今回も前回と同様に高三は全員参加したが、高二、高一は当試験の行なわれる前に実施されたアチーブメントテストの結果、平均が一定の点数に達した者に対してのみ受験資格が与えられた。成績次の通り。

▽総合努力賞　二Ａ　宇土沢宏司　六〇点
▽総合賞　該当者なし
▽科目賞
英語、国語共に該当者なし
一社　二Ｂ　小林　泰宏　八〇点
日史　三Ａ　菊池　啓治　九〇点
三Ｂ　角館　守　八四点
世史、人文共に該当者なし
時事　三Ａ　菊池　啓治　七七点
三Ａ　板垣　隆夫　七七点
解一　三Ａ　沼畑　隆男　七五点
解二　該当者なし
幾何　三Ｂ　堀　孝範　七五点
物理　三Ａ　久松　良助　七〇点
化学　二Ａ　宇土沢宏司　八八点
生物　二Ｂ　角掛　勝彦　八六点
地学　三Ａ　松本　和雄　八六点

▽学年別平均点
高３　二一・一点。高２　二八・二点。高１　二〇・九点。

Ａテスト結果

高校一、二年及び中学のアチーブメント・テストは、十二月八日行われた。

総合成績次の通り。

高二Ａ	宇土沢広司	八三・三点
高一Ａ	佐藤　哲郎	八四・一点
中三甲	宗井　靖	八八・二点
中三丙	小野　実	八二・六点
中三乙	藤田　耕平	八一・二点
中三丙	赤井　淳一	八〇・四点
中二甲	喜多　英俊	八一・〇点
中二乙	川村　伯光	八〇・六点
中二乙	小笠原昭男	八〇・二点
中二甲	本間　博文	八〇・〇点
中二甲	八重樫寛治	八〇・〇点
中一甲	里見　一栄	九五・二点
中一丁	板垣　信義	八六・八点
中一乙	三田村　侑	八二・四点
中一丙	大川　信行	八一・六点

本校プール公認さる

昨年十月末完成した本校プールは、かねて学校側より、日本水泳連盟に対し、その公認を申請中であったが、去る一月十九日、志戸平温泉プール、金田一温泉プールに次いで、県下で三番目の公認プールとして許可された。

これによって、本校プールで行われた競泳記録で、公式審判員の判定によったものは全て公認されるわけである。

断言

『マコトノカミサマハ……』と昼休みの時間すらりとハンサムな宣教師から有難いお話をうかがったが、放送室から出てきたのを見たらオーバーを着たまま……。

さてこのお方、アチーブによると言葉使いは八、エチケットは二故に単位はあげられません。

× × ×

新歌集『ストーブ』発刊
あぶれども、あぶれども
なお我がこの手暖くならず
ちっと手を見る　—頓木—

× × ×

今日は××部の送別会、明日は△△部と近頃送別会が大はやり。

さて先生いわく『ウチの生徒は酒を飲む、まったく末恐ろしい』それに生徒答えていわく『ポートワインは酒の中には入りません』でもアルコールがビールよりも多いでしょう。この勝負、先生の勝。

× × ×

高三氏いわく『ああ、とうとう学校も卒業だ、これで思い切り髪を伸ばすにいい』どうぞ御自由に……。でもポマードは八分目がよいそうで……。

17日——26日
この新人！この監督！最高の栄誉に輝く本年度ベストワンの総天然色シネマスコープ
彗星の如く現れ忽然として花の如く散った
世紀の新人　ジェムス・ディーン
二度のアカデミー賞に輝く名匠
エリヤ・カザン　監督
エデンの東
国劇

◎祝　御卒業
記念品は是非
◎入学必携品プラチナ万年筆
◎彫刻サービス
中屋万年筆店
盛岡市大通り　ＴＥＬ２、762

時計と眼鏡
品質と価格
絶対信用を重んずる
山屋時計店
盛岡市茅町　ＴＥＬ　115

新学期に備え
各種優良参考書多数入荷
岩中・高の皆様をお待ちして居ります
材木町　東山堂支店
中学コース　高校コース　毎月25日発売
ＴＥＬ　2420番

★★★ 多彩な六年間 ★★★

☆ 第八回卒業生座談会 ☆

〃たがいに睦びし学びの窓、別るる後にもやよ忘るな〃今年も再び卒業生を送る頃となった。そこで本新聞部では、去る二月七日母校における最後の試験を終えたこれ等卒業生の代表九名を出版委員室に招いて、在学六年間、特に高校時代三年間の思い出を大いに語ってもらった。今年度卒業生は百名という本校に新制高校を設けて以来初めての少人数ではあるがその六年間の学校生活の内容において、かっての卒業生には見られないくらい多彩なものがあったようだ。以下尽きない話題を追ってみよう。

素晴しきかな高三前期

甲子園出場は生涯の快事

司会　今日で試験も終り、あとは卒業式だけですが、どんな気持……

一同　……

司会　皆さんは各委員会及び部の代表、つまり良識ある卒業生の意見をここで反映できる人と思ってるんですがネ（一同ここでニヤニヤ）今日は一つ活発にお願いします。では初めに在校中最も楽しかったことなどから

小林　高三の前期が総じて。

一同　うん、だいたいその辺だな。

岩間　後期になるとやっぱり入試が気になって。

大星　勉強したかしねかは別だども。

一同　（頭かきかき苦笑）

井上　野球部の甲子園出場は生涯の快事、修学旅行は楽しかった

鎌田　奥羽予選に八戸に勝った時など涙が出るくらい……

小笠原　法政に勝った時ナ、丁度山岳部員は合宿しててサ、皆声も出ねくれへばってたのに、ある人からヨ、岩高勝ったと聞いておもシェくて雨の中歌って歩ったたったナァ。

松本　その時、試験あれば皆百点だったのに、惜しい事したナ。

近津　だンめ、だンめ、ファイトあり過ぎて隣の領域侵入、そして一週間のストップ喰うで。

一同　ハハハハ……

菊池　岩手山登山はよかった。

鎌田　これからもずっと続けた方がいいな。救護班はごくろうさんだった。感謝するよ。

高橋　中学参加はどうでしょう。

小笠原　むりだな。雨など降ってからハ、高三は皆臨時救護班にならねばねから。

小林　雨といえば遠足はひどかったな。遠足は歩くだけが目的でないんだろう。やはり一つのレクリエーションだと思う。

近津　雨中行進はひどい。

松本　石桜新聞の断言にいい事書いてらっけナ。質実剛健とは…ええと…雨の中の…遠足なり。

近津　違う、違う、それはロードレースだ。

松本　（苦笑）

小笠原　皆、コース（遠足の）に不服があるようだったが、あれは当然生徒が決定すべきもんだ

座談会出席者

鎌田耕一郎	石桜会々長
岩間　健治	学習委員長
松本　和雄	文化委員長
近津　義一	出版委員長
菊池　啓治	総務委、弁論
大星　雄三	図書委、弁論
小林　誠穂	絵画部
井上　保雄	科学部
小笠原勝久	剣道部、絵画
高橋　純一	新出版委員長
角掛勝彦（司会）	新文化委員長

全生徒参加の部活動

修学ならぬ修学旅行

司会　鎌田クン、宮古の高体連の時、何か応援で学校とまずい事があったように記憶しているが、その事を話してくれないか。

鎌田　あれか、あれは実際おもしろくないトラブルだった。学校では初め行ってよいといってたんだが。行く前日の夜中の十時頃だったかな、校長先生から突然電話で行くなといわれた。結局は行ったんだが、後味が悪いよ。

井上　応援は必要だと思うナ。

小笠原　それはいわば一つの競技なんだ。そこのところの認識が

近津　宮古ではいざとなったらスティションホテルの覚悟だったんだろう。しかしまァよかったな。あそこで俺達ァ随分評判よかったらしい。色々手伝ったりしたからな。

司会　修学旅行はどうでしょう

近津　あれはやはり二年の時してよかった。修学旅行って意義めんどうだ。……ちゃんちゃらおかしくて、何が修学なものか。

菊池　だれだかさんは上野駅で一時間半の遅刻したぞ。

一同　ハハハ……

X　うん、あれは謝るよ。穴があったら入りたいくらいだ。

大星　ふだん堅いと思ってた奴がカラーストォリーを話してたぞ。

高橋　何でも今年の修学旅行は明石まで行くそうですが。

大星　へばるだけが関の山さ。結構楽しいには楽しいんだが。

先生は助言者であれ

大星　運動会が毎年おもしろかった。しかし仮装行列は最近どうも変な方向に向ってるような気がする。

松本　第一金がかかりすぎる。豪華でありさえすれば、工夫がなくても歓迎されるんだから。

高橋　演技力がいるようにもなったんじゃない。ただ歩いてたんでは話にならない。

菊池　今年の仮装は見れないでしまった。

小笠原　運動会でも文化祭でもその他何でもだが、忙しい奴はむやみやたらと忙しく、暇な奴はその日は休みと心得てるくらい暇なんだからナァ。

近津　行事は全員参加しなくては

鎌田　あの時は雨が降って、客のこないのが残念だったなァ。おかげて徹夜で作ったパンフレットも売れずじまいだった。

菊池　文化祭はもっと早く、十月頃にやったらいいと思うが、どうだろう。何も文化祭だからって十一月三日の頃にやらなくてもいいもんだ。

小笠原　さっきもいったが、ルンペンナ、奴等は休むだけでなくクラブ活動している者を軽蔑してるんだから。今後もこうゆう人はでてくると思うが何等かの処置を構じなけりゃ。

大星　彼等の心理は不可解だな。そうゆう人が一寸を惜しんで勉強しているわけではないんだから。あるいは集団を超越した気持かな。一種の英雄気取りだ。

菊池　こうも考えられる。それはどんなに動いたって、現状では生徒会活動は学校側に完全に押えられていて、思い切った活動ができないというふうに。

松本　生徒の意見を入れてくれないんだ。経験のある先生の目から見たら、そらあ俺達のやることは未熟で、口ばしも入れたくなるだろう。だが俺は自分でやる所に価値があるんだと思う。

三十周年　記念行事を望む

司会　三十周年記念はやらないとの校長先生のお話ですが。この点卒業生として…

近津　理由がはっきりしないんだから話にならん。

小林　式だけでもやったらいい。行事がだめなら。

菊池　創立の趣旨ナ、いつも校長先生がいっている。中学校の方なんか全然知らん。

岩間　創立何周年ぐらいだかも知らないだろう。その点でも三十周年記念をやって創立の意義を新にすべきだ。

高橋　校長先生の訓辞だけならもう慢性になってしまって、創立の趣旨もピンとこないが、記念行事をする事によって我々は体験として消化し意義あるものとなるのじゃないかな。

近津　二十五周年の時は手ぬぐいを渡したな、やるとすれば金はかかるだろう。

大星　だがやらないとすると、六ヶ年の在学中創立記念には一回も回り会わない学年もでてくるわけだ。

司会　皆さんは絶対やる方が良いってわけですね。

一同　そうそう（頷く）

既に石桜会規約改正の時期

会長選出は推薦立候補制で

司会　かねて出版委員会では、規約改正を主張してきたんですが、それにかんがみてもう一度生徒会活動を振り返ってみて下さい。

近津　出版委員会は前から部にしてくれっていってるよ。理由は沢山ある、要約すると、結局性格が委員会よりも部に似ているってことだ。

岩間　学習委員会だが、何にもしなかったな、大体何をやっていいのか解らんので。

小笠原　生活委員会だって、あの階段のところの黒板ナ、目標だか何だか書いたって、それで活動しているとはいえない。

鎌田　総務も駄目だった、俺達が中学の頃は、随分やっていたようだったが。

松本　気持の上でゆとりがないんだいいところで夏休み前までだ

菊池　委員会は二年生が主体にならなくちゃ、それから中・学校の自立ナ、あれは当然だと思う。

井上　一貫教育をしている我校としては微妙な所だ。

大星　役員の引継ぎも、もっと早く、そして引継いだ人達が三ヵ月の埋合せのためにあるような状態を改めなきゃ。

近津　二期制にした方が良い。

鎌田　三年生は顧問に—

近津　会長も推薦立候補制で。出版の場合だって好きでもないのに選ばれてくるのがいる。やる人は明るい中に家へ帰った事がない規約改正は必要だ。

司会　もう、その時期に達っしているってわけですね。

一同　その通り

高橋　来年はやりますよ。

頑張りの精神もて

司会　では最後に学校、在校生への要望、その他何んでも一言

鎌田　中学から高校に上る時、試験した方が良い。岩中に入って居れば、黙って居ても高校に行けるんで、などというのが居るそうだ。

菊池　中一募集のあの願書に、高校入学は無試験と書いてある、あれは良くない。

井上　高校へ来る時、他校へ行くのもどうかならんものかな。

小笠原　図書館作ったのはよいが何故開架式にしなかったんだ。

大星　本がなくなるからだ。

小笠原　盗まれると考えてるのは我々を色めがねで見てるんだ。役所的だよ。館外貸出しもしていない。

岩間　自分の欲しい本が渡されたら、てんで別だったなんてこともあった。

小林　プール、とうとう泳がずじまいだった。卒業してからも泳がせるんだろうな。

近津　石桜会費はあげた方が良い授業料は駄目だぞ。

松本　校旗がないな、あるのは中学のだけだ。

小笠原　体育大会などで肩身が狭くて。

大星　音楽室が欲しい。来年はいよいよどうなるんだ、二クラス卒業、四クラス募集。

井上　応援歌は唄い難くて声がでない、音痴でも唄えるような応援歌が欲しい。

司会　下級生に一言

一同　勉強しろ、俺達ァ遊びすぎた。頑張りの精神を持つんだ。

司会　下級生は何事にしても頑張ることだということですね。どうも忙しいところ

東京岩中会だより

昨年暮、本新聞部宛に、東京在住の本校先輩から形成されている、東京岩中会より、母校の様子は、毎回送られる本石桜紙によって、くわしく知る事が出来るが東京岩中会の活動は、母校や、在盛岡の同窓生には余り知られていないと思う。これは、同窓生相互の親睦という点では甚だ遺憾である、旨のお手紙があり、過日行われた岩中会の模様をよせられた。以下原文を掲載致します。

三十年度秋季総会（第九回）

三十年十二月十日午後六時より国電新橋駅構内の日本食堂で開かれた。岩中会々員総数約百六十名であるが、この日の出席者数は四十九名、その中先輩は十名であった。幹事は出席者が百名以上になる日を夢見て居りますが、残念ながら東京では岩中会以外の交際が年末になると殊に weight をもって来るので、大体この程度が限界なようです。

会は定刻より約十分遅れて佐々木久志氏（中大卒・小泉ペイント勤務）の開会の辞によって始められた。司会は例によって佐藤友晃君（立大四年）彼はこれが最後の東京岩中会。感無量のものがあったと思いますが、いつもの通りスムーズに又ユーモラスに会を進めた。

会計報告、明年度幹事選出と堅くるしい議事が終った後、松田巌雄幹事長（岩中一回卒、三田商店東京支店勤務）の経過報告があり次いで各先輩の自己紹介を兼ねた自慢談、人生訓等、いずれも同窓の人からでなければ聞けぬ人間味の有るお話があった。この最中本会々長である三田[illegible]長が旅行予定を変更し出席された。司会の求めに早速応じて挨拶され、原子力の問題に特に関心を持つよう強調会員に深い感銘を与えた。

次いで学生自己紹介が、ビールのホロ酔い気嫌も手伝って和気あいあいの内に終り直ちに懇親会に移りました。

例の如く松田幹事長の十八番『黒田節』を皮切りに、高校四回生一同のラグビー部歌、盛岡音頭等々と賑かに騒いだ後、八時半小山勝氏（高校一回卒、黒田電気勤務）の閉会の辞、続いて校歌を斉唱最後に岩中創立当時の先生であった南部先生の発声で岩中会万才を三唱、散会した。

会員はそれぞれ気の合った同志で近くの飲屋街へ吸収され、二次三次の岩中会というわけである。

明春五月には第十回総会を迎えるわけであるが、今回以上に盛大に、しかも単なる飲み会以上より有意義な会と致したく、幹事は今から頭を悩まして居る次第です。

なお明年卒業の高校四回生は東京就職者が悪く、熱心な幹事が多かっただけに（岩中会の二分の一）非常に惜しまれる次第です。しかし五、六、七回生に夫々の優秀な幹事が居りますので、東京岩中会の前途は何んら心配はありません

三十一年度幹事

○幹事長　松田　巌雄
○先　輩　佐々木久志
○四回生　安西主税、八重樫昌宏
○五回生　田村寿、柳田忠樹、箱崎道朗
○六回生　丹内禅海
○七回生　佐藤弘、植木務

なお、明年度東京進学者にお知らせ、住所決定次第『中央区日本橋小網町一ー三、三田商店内東京岩中会』へお知らせ下さい。又先輩在京者の住所を知りたい場合は、往復葉書又は返信用切手同封の上右記東京岩中会まで御一報願います。

東京岩中会幹事一同
代理　八重樫昌宏

パントマイムに爆笑

予餞会盛況裡に閉幕

今年度の予餞会は、一月二十八日に盛況裡に行われた。まず学校長の今年一年間をふり返ってみてのお話しがあり、次いで新卒業生に対して在校生代表、宇土沢広司君の挨拶、それに対する三年生の菊池啓治君の謝辞などがあっていよいよ余興へと移っていった。余興へ移る前に全生徒にキャラメルが渡され、なごやかな空気の中にまず中学演劇部の劇『棒しばり』が演じられた。

続いて中一の吉田君が出演、澄んだボーイソプラノで『星座』を独唱。そしていよいよ名司会者名久井君のリードよろしくパントマイムと称するものが始まり、各部のキャプテンが出場。ジェスチャーのみでの熱演に場内は爆笑又爆笑の連続である。次にこんな時以外絶対に見ることのできない先生方や三年生の隠し芸が始まった。落語らしきもの、解析の勉強、民謡南部馬方節などが次々と出てきあの先生がこんな事をするとは、という驚きの声や賛嘆の声が聞かれた、やがてこの日一番の呼びものである『岩手スリッカーズ』による〃リズムの祭典〃が華かなギター合奏で開幕された修学旅行をテーマとして、二年有志の漫才手品、のど自慢、それに今や学生の必需品？であるジャズまで飛びだし近年にない盛況を呈した。そして最後に高校演劇部の『マントールスカパン』で幕を閉じたのである。

最後に一括して今回の予餞会をふり返ってみると運営上の不手際幕間の時間の浪費は反省されねばならぬが、二年生が主体になってやった初めてのものとしてまずその第一歩をふみだした。初め良ければ中半よし、あとは今後一年間の二年生の活動をつぶさに見守ろう。

新学期の学用品は
木津屋文具店
盛岡市材木町
デンワ　125・240

学生向カメラと
双眼鏡
岩手高さんには特別サービスします
材木町交番前　藤田屋

諸スケート競技大会

県下のレベル向上に苦戦

高二武田国体スピードに出場

冬期スポーツの華、スケート競技の岩手県選手権大会兼国体予選兼県高校選手権大会は一月十四、十五日の二日間、盛岡市高松の池リンクで開催されたが両日共気温が高く、スケート競技を行うには悪コンデションであった。

試合数の少ないウィンター・スポーツなので部員一同一年間の努力をここで結実させようとばかりタイムへと挑んでいった。

次に我が校出場選手のスピード競技の記録を記す。

▽五百米　武田忠二54秒2（三位）松岡直彦60秒4（十位）

▽千五百米　日向政人3分36秒（六位、転倒）武田忠二3分0秒2（一位、総合七位）大田和夫3分0秒10（三位、総合十二位）

▽五千米　竹花国夫10分26秒3（総合六位）宮野半四郎10分45秒（総合十位）

▽一万米　竹花国夫21分0秒3（三位）宮野半四郎20分21秒（二位）

一方、この日高松の池下の特設リンクでは応援団、約百名の声援の中に対盛岡一高とのアイスホッケーの試合が行われた。我が校は堀主将を中心に藤原、佐々木と協力一致、しばしば一高のゴール前に迫るという、迫力あるプレイを展開したが惜くも七対三で敗れた。

次いで一月二十一日－二十四日までの四日間は全国高校選手権大会が青森県八戸市の長根リンクで行われたが全日共観衆は高校、一般共にざっと二万を数えスケート競技会の雰囲気を盛り上げた。この日の長根リンクは西の風がやや強く、気温、氷点下五度、時々小雪がちらつくといった天候で氷質もよく、スケーターには絶好のコンデションのもと、トラックではセパレート・オープンのスピード競技フィールドではフィギャスケート又特設リンクではアイスホッケーと各種目に渡り熱戦が繰り拡げられたが全国的にレベルが向上しており、我校は何れも苦戦したスピード記録は次の通り。

▽五百米　日向政人61秒6（転倒で六位）

▽千五百米　大田和夫3分0秒5

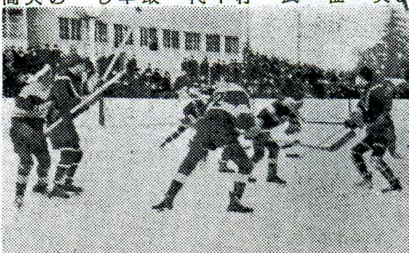
▽五千米　竹花国夫9分50秒（五位）宮野半四郎11分3秒（七位）武田忠二10分5秒（六位）大田和夫11分0秒13（四位）

なお竹花は総合二位でした。

▽一万米　竹花、武田共に失格

一方特設リンクで行われたアイスホッケーの第一回戦は栃木県代表の今市高校と対戦、前半は良く頑張り先取得点を上げたが、後半逆転され二対一で惜しくも敗退した。

さて、本シーズンの最後を飾る国民体育大会スケート競技会は高校の部が先きの全国高校選手権に次いで二十七日から三日間、前大会同様長根リンクで行われた。我が校からはスピードの武田忠二が唯一人の選手として出場したが、五百、千五百米とも予選で惜しくも失格した。▽五百米　52秒3（七位）▽千五百米　2分5秒4（六位）。また、ホッケーは例年のごとく盛一との混成軍で出場したが一回戦で惜敗した。



高三Bに凱歌

校内ラグビー大会決勝戦

本校年中行事の一つ、校内体育大会。その中でも本校にとって伝統的スポーツとして好試合を展開するラグビーの部は、昨年十二月五日より体育大会の最後を飾って、各クラスが栄冠を勝ちえようと覇を競った。しかし決勝戦はあいにくの雨にたたられてグランドコンディションが悪くなり、冬休み過ぎまで延期されていたが、グランドも回復した去る二月八日、二Aに不戦勝で駒を進めた三Bと、一Bに六対〇で快勝した三Aと高三同志の間に雌雄を決すべく決戦が開始された。この試合、双方共に押しつ押されつの白熱戦を展開したが、三Bはパスワークよく、前半に一トライ、後半一トライと合計六点を上げた。これに対して三Aは惜しいところでトライが決らず遂に善戦空しく破れ去り、三Bの輝く優勝の中に幕を閉じた。

▽決勝戦

三B　6（3…0　3…0）0　三A

×　×　×

×　×　×

好天に恵まれた中学スキー大会

元気な応援戦も展開

中学雪中行軍スキー大会は晴天に恵まれた二月十四日、岩山スキー場において行われた。

午前九時寄宿舎集合、校長先生のお話の後岩山に向って登行開始岩山着十時頃、風なく積雪は一尺を越えコンディションは上々、戸嶋先生より競技上の諸注意があっていよいよ競技開始。滑降、廻転ともにクラス対抗で行われ、応援合戦もまた賑やかであった。競技終了は十二時半。

昼食後、平藤先生（旧姓古川）の滑降指導、それからミカン拾いなどあり、最後に校歌斉唱、岩中バンザイを山々にコダマさして愉快な会の幕を閉ず。現場解散一時五十分。次に参加者の感想文を掲載する。

◇昨年とちがって見事な天候、朝起きてエィツ!!とばかり一飛びに寄宿舎へ着き予定通り登行。岩山への途中は去年とちがって薪がない事は我々一同に取って何よりの幸?どうやら〝肉汁一パイ〟〝ヘイ〟てな事にはならぬらしいがそれでも一同楽な気でテクテク登る。

◇諸先生の挨拶の後いよいよ競技開始、レースは滑降より始まり、続いて廻転競技に移った。各々自分のクラス出場の勇士を一位にせんものと応援合戦もはなばなしく〝ワーワー〟中には『バッキャローところぶ奴があるか』とはね。そして競技の最後を飾るクラス対抗リレーが行なわれた。出場者、我れこそはと一せいにスタート。だが途中で転倒する者も少なからずあった。

◇昼食だ!!だが去年の様に肉汁がないのが一寸残念だった。然しそこを想像でおぎない皆大きな口を開けてムシャムシャ

◇山の影にあるジャンプ台に行ったが、驚くなかれ鳥の様に飛んでいるのは、マンボスタイルの可愛いい?お嬢さん。これを見ていた一同、何も云わずに見ていたが、しばらくして一生徒『ウメエもんだな!!女であの位だからおらだって……』これを聞いたF君『バカ云えキサマなんかに出来るもんか』と云い合いながらも見とれている。スーッと滑ってビューンと飛ぶ、おりたとたんはフラフラでスッテンコロリ…かと思ったがさにあらず、スーッとおりて滑べり去る。『ああ、何んてウメエンダベ』いやはや大した大和ナデシコもいたものである。

◇皆の所に帰って見ると平藤先生の指導で先生方も大いにはしやいでいた?或る生徒『あの先生随分ウメエなあ』これを聞いたヒニク屋な一生徒『アハハ……あの先生はスピードがかからぬ中に止めているんだ』一同の笑い声聞えたかな?先生がこちらをチロリと見た。

◇待ちに待ったミカン拾い。余り慾ばって潰ぶしてしまう者や沢山拾った人を羨ましそうに見ている者等さまざまであった。とにかく無事終了し拾得品も無事おさまってめでたく散会。好天気に恵まれ楽しい一日であった。（中三・T・N記）

こだま

▼欲しい部員室

今年の高三卒業生が百名弱の二クラス、そして明年の中一募集人員が二百名の四クラス。こうみると当然明年は教室二クラスが不足し、去年の如く階段教室を使用したり、あるいは図画室や元音楽室の柔道室を中一の教室に向けなければならぬわけだが、この際もし学校に校舎新築の計画があるなら、どうか教室同様不足している部員室の新築を合せてしてもらいたい、僕は弁論部員ですが、部員同志が毎日集って討論できる室が欲しいのです。室がないということは部の活動を行事、大会でのみ確立するという好ましからぬ事態にしてしまい、本来の部の活動であるべき部員同志の研究、訓練を疎遠なものとしてしまうのです。ですから我々は切に部員室を欲するのであります。（一BT・K）

回答

確に教室が不足するので校舎は増築します。しかし部員室という方面までは手が回りませんそれをする前にする事が沢山有ります。授業設備の完備、旧校舎のペンキ塗り替え、柵の修理等。部員室も確かに必要です。これら諸設備が整い、種々の余裕が出来た時には、又考えましょう。（学校長談）

（文責記者）

復活内定の弓道部

戦後長らく禁じられておった日本古来のスポーツも既に我校においては柔道、剣道と復活をみ、残るは弓道だけとなったがこの程同部も復部される模様である。

—舟遊び—

山口民三郎

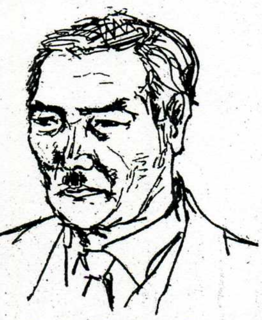
与十さんと忠三さんは従兄弟同士で魚獲りがうまかった。いつも北上川を小舟で上下して網を打っては小魚をたくさんとっていた。その小舟は赤石神社の裏の杜陰につないでいた。そしてその附近一帯は私ども子供の水遊びの場所で夏になると小学校帰りの子供の裸像が河岸河中に乱舞していたものである。与十さんの小舟は餓鬼大将の御座所であった。

ある日私は小学校の帰りに吉田君、鈴木君の二人を誘って跣足で帰宅、いそいで例の川岸に行き土堤の上に着物をぬぎすてて川の流れにとびこんだ。当時の北上川は今のように松尾からの濁水で汚されることもなくほんとうの清流であった。日はかんかん照って流れの中は気持がよい。やがて三人で舟遊びにうつった。いつもやっていることなので北上川を横切り往復漕ぐことなど子供ながらもへっちゃらだった。何べんも対岸に漕ぎつけ又戻り帰ったりした。舟遊びもこの辺で止めて居ればよかったのだが舟遊びの楽しみをもっともっと味いたかったのだろう。中流に棹さして流れに沿うて棹をうんとおせば舟はぐんぐん速く下る三人力をつくして北上川をぐんぐん漕ぎ下った。川岸の立木はどんどん後に走り去る三人共々に言う『汽車よりもはやいなァ。』おもしろいこと限りない。一里位も漕ぎ下ったところに滝名川の合流点がある。そこまで来て大分漕ぎ下ったことに気づいたが、まだ日は高い。滝名川の流れに舟を入れて見た。腕白小僧三人のうち誰もこの付近までは遊びに来たこともないあたりの地形は、はじめてのものだ。あまり遠くまで来てしまっていくらか不安を感じていたったかも知れない。然し日はまだ高いし元気もありそれ程びっくりもせず舟を川上に向けて漕ぎはじめたが舟は遅々として進まない。ふと見ると滝名川の落口のあたりから北上川にほぼ平行な入江のような工合の淵がある。水があるだけで流れてるのではない。静水であるからこれを漕ぎ上って行けば楽にまた北上川に合流するかも知れないというのでこの淵を漕ぎのぼった唱歌などうたいながらゆっくり漕いでいたら遠くから『おーい』『おーい』と呼ぶ大人の声が聞えて来た。こちらからも冗談半分に『ホー』とか『オー』とかとあてのないいたずら応答をしながらなおも漕ぎ進んだ。『おーい』と呼ぶ声がだんだん近ずいて岸の柳の茂みの間から顔を出したのを見ればうちの父ではないか。

『馬鹿っ、早く帰れ！』

『舟を早くこっちにつけろ』

幼き日の思い出



重茂佳伸画

なぜ叱られるのかわからなかった水あびや舟遊びは我等毎日の日課のようになっていたものだから。舟を岸につけて陸にのぼり、はじめて理由がわかった。

舟の持主の与十さんが石鳥谷に舟を持って行く用事があって昼食後川に来て見たが舟が見えない。川上、川下すかして見たがどちらにも舟の姿が見えないのでびっくりした。それもその筈あの付近の北上川は城山の麓から楼淵のあたりまでほとんど一直線に流れて居り、その頃私共の舟は楼淵の中を漕いでいるので見えなかったのだろう。与十さんは困ってあたりを見ると土堤の上に三人の着物と下駄がぬぎすててある。そこで騒ぎが大きくなった。与十さんの想像は、彼が昼寝のために帰宅してる間にいつもの悪童共が舟を出して流の急なところでかちを誤り舟をひっくり返し溺死したのかも知れない。舟はそのまま流れてしまっただろうと、そうであったら大変と私の父に知らせ部落の人達が出て深してるというのだ。みんな心配してるからその方に父は見つけたことを知らせねばならない。おまえ方は早く舟をもとの場所にもどせと言いおいて岸づたいに川上に戻って行った。私共の今舟をつけてる岸は淵の一番奥であった。私共の最初の考えではこの奥のあたりで淵と北上川が水路連絡あるものと思っていたのだがそれがない。柳の間を一寸ぬけると北上川の岸の礒がある。僅かの距離である。舟を滝名川の落口まで戻して更に漕ぎ上るのでは大変時間の損失になる。この小石の河原を舟をかついで川に出ようと決意、吉田君は三人の中で一番大きく力も強いので舟のへさきの下に背を入れ鈴木君と私は舟尻を持ちかかえて静かに歩きはじめた。余り遠くまでは行ってない父が後振り返って見てまた戻り吉田君に代って背を舟底に入れてくれた。やっと舟は北上川に浮んだ。三人の力を棹に結集しても流れを漕ぎ上ることは容易ではない。一時間余経って父は又迎えに来てくれた。そしてへさきの綱を伸ばして肩にかけ岸に沿うて舟を曳いてくれた。舟の上の我々は舟が岸に触れぬように棹でかちをとって居るだけで今は舟がのぼるのだ。そして赤石神社の裏手に辿りついた時には太陽は暮れかかり想像に反して誰も居残ってなかった。父は舟を太い柳の根方に結いつけてる間に三人は土堤にのぼって無言のまま手早く紺絣の単衣を着て兵子帯をしめた。父は三人に帰宅を促しただけで何にも叱らなかった。鈴木君は彼の家の方に走り出した。吉田君と私は同方向であるが吉田君はずっと遠い、川向うの家なのであるが舟ではなく橋を渡って行くことにして私と歩き出した。父はあと叱ってくれなかったがその晩母から随分と説教された。与十さんも忠三さんも今はこの世の人ではない。この事の前にこの二人の小父さんから棹を使って舟を上手に漕ぐことを教わったのだった。

日活映画のライン・アップ

3月11日より　怒濤の男・逢いたかったぜ
14日より　風船・極楽剣法 ①
21日より　神坂四郎の犯罪・極楽剣法 ②

※岩波の文化映画から続々スクリーンに
登場します、御期待下さい

温風暖房　盛岡日活劇場

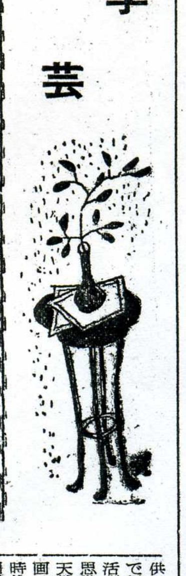
春のスポーツシーズンを
向え、各種運動用品を
豊富に取揃えました
優良店会加盟店
藤沢体育堂
盛岡市材本町
TEL 432番

今年度も又
杜陵最古の歴史を誇る
優秀万年筆の店
万年筆専門
万年堂
盛岡市中ノ橋通り
TEL 2621

学芸

夢と共に

中村嘉明

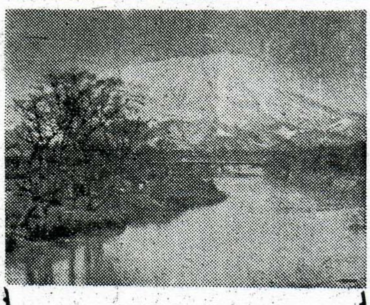


時代というと昔を追憶し、現代というと新鮮味を感じ、未来というと進歩を飛躍し夢として遠く人間生活から遊離させたがる。人類の歴史を暫しこの面から考えてみたい。人類の歴史の区分を過去、現在、未来に対してどんな価値認識をもって行動し働きかけたかを私は左に図示してみた。

	未来	現在	過去
未開時代（人）	薄弱	最強	中弱
中世時代（人）	弱	強	中強
近世時代（人）	中強	強	弱
原子力時代（人）	強	中強	中

未開人は現在に主体性を置き、幼稚な知識と科学が過去より未来は思考の範疇（はんちゅう）外に制限され、未開人が残し現存せる文化遺産は、未来の進歩発展を予見せる因子は弱い、唯、その時代に適応するためのものと考察される中世の人は現在に対しての意識も強いが過去の遺産の再現を精神的面（文芸復興）にかなり強く作用し、未来に対しての希望も弱い近代人なると現在意識もかなり強いが、中世代より弱く、かわって未来に対しての意識が中強となるこの態度は新大陸発見時代から植民競争にみられる、過去に対しての反動となり、あまり反省されない。原子力時代に突入した現在、過去、現在に対しての執着より未来に対しての文化創造の建設が机上で計算される時代となり、現在は未来のためと明日の希望の具体的実現意志が強力化している。即ち、世界の歴史の進行が自己を停滞させず、不可抗力的、相対的に時間が人間を押上げる、時代の波の変化は時のきざみが一定調なのに時代の波は大きく変化し、進歩して加速的進行を続けている。マルコポーロが『東方見聞録』の中にジパング（日本）を初めて一二九五年に紹介、ヨーロッパ社会に日本の存在が眼に写ったのは一五四二年種子島で一四七年後、コロンブスが富国インドへの西廻りの航路を発見しようと一九四二年サンタマリア号で七十余日を夢と希望を乗せて西インド諸島に到着、サンサルバドルでインデァンがトウモロコシの葉にタバコを巻き吸っているのをみてから、濃厚の大煙の如く世界に広がり一六〇五年日本に伝来したのが約百年後にあたる。

一九五三年死亡したスターリンが第七次五ヵ年計画が実現されるとアメリカの工業生産力とソ連が同等になると予想したが、彼の計画はむなしくほうむられた、それは不可能を意味するのではなく、時代の進歩、加速度を誤算したのだ、最初の予想計画より五年早く実現されると一九五六年共産党大会でフルシチョフ第一書記長が言明している。我々はこの事実を彼の遠い国の出来事と無関心でいられないと思う、今年の冬休みに大阪で立体映画シネラマを観た。エダソンが一八九三年活動写真を発明し今日で六六年である。私は子供の頃三銭で第二日活館（銀映座）で無声映画、弁師付、活動写真大活劇をみて面白く科学の進歩を不思議がった。それが、トーキー、天然色、シネマスコープ、立体映画、シネラマと時代の波にもまれ時代の要求に反応して来た事実を回想するとき、近い将来、デパートから百円ぐらい出して映画の小箱を買求めポケット中に入れ、夕食後家庭で観賞する日が絶対に来ないと断言できるだろうか、原子力の平和利用が全家庭を電化し合理化し、社会は近代化し、学校がなくなり、教育は家庭でミルクを飲みながらテレビを観、テープレコーダの答案を提出し機械で採点される、勉強方法になるかも知れない。未開人は野獣を飼ならして家畜とした、現代の人類は自からの手で全く新しく強大な破壊力をもつ野獣にもなるし、又、平和面に利用すれば驚異的エネルギーと勇気のある家畜を作り出した。日本人は三度までも原子力の野獣にかみつかれた、悲しんで怖いているときはすでに過去に去って、積極的に人類が自からの手で作りあげたこの家畜と青空の下で微笑する日を私達は待ちたい、現代人はこの文化バスに乗りおくれないように、未来の文化的安楽バスの中で誰もが仲よく談笑する日が来ることを人類の可能的夢として私は待詫ている。人類の幸は、人類の知恵によって作られるならばその知識の認識を確立しさえすれば人類の智は人類の幸福と一致することを考えながら——



やはらかに柳あおめる
北上の岸辺目に見ゆ
泣けとごとくに

ふるさとの山に向ひて
言うことなし
ふるさとの山はありがたきかな

汽車の窓
はるかに北にふるさとの
山見え来れば襟を正すも

—啄木—

『太陽の季節』に思う

若杉寛治

私は普通雑誌にあがっている小説は読まない。学生という身分である以上、やはり学業のことを考えねばならず、歴史的判断を経ていない書きたての小説を読む時間的余裕がないのである。文古典の名で呼ばれている名作を読む方が遥かに有意義であると思うのだ。

しかし、この石原慎太郎氏の太陽の季節は例外である。衆知のごとく、この作品は権威ある芥川賞受賞作品であり、現在いろいろと噂されているものである。ジャーナリストがこんなにまでも騒ぎ立てては、いかにがんじがらめの殻に籠っていたとしても、手を出し首を出したくなるのはやむをえぬであろう。

私がこの小説を読んでまず感じたことは、何に対してだか解らぬがすごいということであった。やはり主人公の竜哉のように、反抗して燃えさかる圧力を意識した。それは容赦なく打ちつけてくるグローブの痛みだ。奴等はずいぶん金があるな、全くダンス・ホールは未知の世界だ。肉の息吹きに清浄剤が何になるんだ。実際、道徳だ、勤勉だ、単位がどうしたなどと馬鹿げて見える。そしてこれがアプレであり、まさしく日本だというのだ。

私は完全にノック・アウトされた。そしてマットの上で、ずきずき痛む頭を押えて叫んだ。

反則だ！　反則だ！

竜哉が高校生なら俺だって高校生だ。俺の仲間は皆そんな不良共じやないぞ。判定を取り消せ！　日本はそんなじやないぞ。井上の靖め、へぼ審判め、こんな青年が現代沢山いるに違いないだって、馬鹿やろう。

これが感想といえるならまさしく真実の感想文である。実際瞬間的に私はこのような心の遍歴をしたのである。

そしてその翌日、私は木物半分冗談半分に友達へこういったものだ。『この本は俺にとって一種の興奮剤だ興奮剤が芥川賞だとよ』

今はこう思っていない。しかししばらくの間、このようなセリフが間違いであったと、自信を持っていい切れなかった。私はエロ本を読んだことはないが、タッチが鮮かであるだけに、この方が文学少年、青年にとっては遥かにパトスするであろう。

竜哉のグループは肉体的成長によって見せかけの大人になったのにすぎないのに、彼等が偉大な精神的成長を遂げ、知識の堆積をしたような錯覚に捕われるのはなぜか。莫大な金力ときらきらした筋肉の前には、これほどまでに知力道徳、そしてこれらあらゆる正義が無力であるものなのか。精神修養の到らない故か。

いったい、未だ大学生である作者は竜哉の態度、英子の交りを是認しているのか、いやそんなことはあるまい。作者はモラルに富んだ優等生だと聞く。作者はどぎついまでに物事を打出しておいて、そのことの否を認識させようとした、逆の作用を考えたのであろうしかしこのことが社会的に可能であろうか。太陽の季節中にもモーター・ボートで行くところにあるごとく、砂浜でのサリーは泣いていたが、一夜明けたサリーは人一倍はしゃいでいた。他の普通の人でもこれと大差ないと考えるのは飛躍しすぎるだろうか。

こう書いても私はこの作品を否定しているのではない。何かしらぐいぐい引張られる力を感じる。誰もがいうように、やはり未知の力と若々しさ（こんなすっきりしたものではないが、他に適当な言葉が見つからない）故だろうか。

この荒削りな文章が私は無性に好きだ、角の取れた文章では、当底竜哉のあの強さは期待できない彼の生き方を否定し、ほとんど憎悪までしておりながら、やはり彼の強さに憧れている。この矛盾したものを含んでいる私を、いったいどう解釈したらよいのか。これは誰もが感じ、そして誰もが満足には答え得ぬものだろう。

快楽の哲学、こんな言葉がふっと頭に浮んだ。太陽の季節が快楽の倫理を説いたものであるか、舟橋聖一氏のいう窒息しそうな道徳屋に向って公然と道を開いた時代の先端を行くものであるか、このような問題は私の力量以外なのでさて措くとして、私は快楽を不義であるとは思っていない。それは漠然とだがやはり人類の到達しうる最高のものだと考えている。

太陽の季節、何故こんな題名をつけたのだろう。私は太陽という名からは頽廃した空気よりも寧ろ真赤な消毒の匂を感ずるのだが、

映画

エデンの東

☆解説　この映画は、九つの賞を受け昨年度ベスト・ワンのワーナー超特作で、原作は米国の文豪ジョン・スタインベック又監督も二回のアカデミー賞に輝く名匠エリア・カザン、それに主演は新人J・ディーン、J・ハリスという顔合せで、上映が期待される

☆梗概　キャルとアロンの兄弟は両親こそ同じだがその性格は、非常に違っていた。兄のアロンは父の信頼も厚く町の模範青年であるが弟のキャルは気難かしやの暴れん坊だった。ある日キャルは赤ん坊の時家を出て行き今ではバーの女将をしている母の元へ出かけたが彼女を一見するなり、懐しさより憎悪の念に押され、その上用心棒に散々引っぱたかれた挙句公安官の取り調べを受けた。その翌日からキャルは父の愛を得ようと一生懸命働いたのだが…（K）

神坂四郎の犯罪

（文部省選定映画）

☆解説　この映画は微妙な人間心理に鋭い批判のメスを入れて描く名匠久松静児監督の異色文芸野心作で、主人公神坂には数々の男優主演賞に輝く森繁久彌が扮しており大に興味が持てる。

☆梗概　三景書房の編集長神坂の横領と自殺幇助をめぐる人々が各々証言するが果して事実だろうか。

永井さち子『神坂は利己主義者で嘘つきの上、秘密好きです、しかし奥さんに愛情があったら。』

妻雅子『妻として誰よりも神坂を愛しています、ただ夫は正直さに頼りすぎて皆に落し入れられたのです。…』

戸川智子『神坂は駄々ッ子で世間知らずな為、皆に利用されたのです…。そして被告神坂は『今までの証言は真実ではない、そして私の証言も…。』果して神坂は犯罪者だろうか、護送車に揺られて行く神坂の毅然たる姿が見られた

E・Pレコード特集

音楽のひととき

今年度二回目のレコードコンサートが、去る二月二十日に音楽部主催でEP特集として階段教室において行われた。今回は聴衆者が少数であったが、今後音楽に関心ある者は歓迎。なお第三回はLP特集で行われる予定だが日程はまだ未定である。

今回の曲目は次の通りである。

ピアノ奏鳴曲第二番—葬送行進曲（ショパン作品三五）即興曲第二番—嬰ヘ長調（ショパン作品三六）異想曲（ヴァイオリン独奏）マスネー作。ツイゴイネルワイゼン（ヴァイオリン）サラサーテ作品二〇の二）シューベルト歌曲集（アヴェ・マリア。魔王）セヴィリアの理髪師—序曲(ロッシニー曲)コリオラン—序曲（ベートーヴェン作曲六二）導入部とロンド・カプリチオーソ（サン・サーンス作品二八）エルマン・マンコール集トロイメライ（シューマン作品十五の七）メヌエット—ト長調（ヴェートーヴェン）瞑想曲（マスネー）アルパハッリーク（グリーク作品二八の三）

PFC会員

グレゴリー夫人を訪問

去年の暮も押しせまった十二月二十二日、PFC会員二十余名は阿部先生引率のもとその目的とする国際親善をはたすべく、盛岡市大沢川原にお住まいの宣教師、グレゴリー夫人を訪問した。

この日、会合の約束は授業後の午後三時半からであったが、残念な事に会員のほとんどが遅刻してしまった。しかしその後はアメリカの学生生活というテーマを中心に話がはずんで約一時間半を有意議に過した。

夫人は非常に日本語が達者で、終始にこやかに話続けられ、特に口ばかりでなく実行力のある人間になることを強調された。又むこうの学生生活については、各学科毎に微細に渡って話され、自分自身は歴史、国語（English）が御得意いであったそうだ。

大学は日本のように一旦入ればそのまま卒業できるのではなく、新入生の約半数が明年度落第しなければならないという、普段我々がアメリカの学生々活について考えているよりは、遥かにきびしいことを外人特有の大きな身振りで話された。その外日本の現状、中国、印度の問題等いろいろ話されたが、終始一貫して話された事は若い人は常に『仕方あります』でなければならないということであった。

編集室

昨年は文学肌の吉田栄一君を送り出した出版委員会であるが、今年は石桜会に、出版委員会にと全能力を注込んだ近津義一君を送り出した。

不活発な生徒会活動の最中にあって独り奮闘、時には他人の反感をかりつつも、生徒会活動に喝を入れて来た男、彼こそは近年まれに見る我校ジャーナリストだ。石桜会功労賞も頷ける。

今回の新聞はまったく近津君の力を借りず二年生以下の者のみで作製したが、近津君の占めたポジションがあまりに大きかったので手迷いばかりして、とうとう試験にかち合ってしまった。

しかしどうやら今年度中には発刊の見通しがついて一安心である又今回は論説として規約改正を取り挙げ、また卒業座談会などでも相当この線を強く打ち出したが、来年度の出版委員会はどのような変化を遂げるか。何となく多忙な一年のように思える。ともあれ現在実際に新聞発刊にたずさわっている者は部としてすっきりした形で発足する事を望んでいるわけである。（T）

御入学御卒業の
記念品には時計をどうぞ
各種豊富取揃え特価提供
盛岡専門店会加盟店
大橋時計店
盛岡市材木町
TEL七九三

アルバム
各種
平金商店
サカナ町角・TEL.48.3048

古書籍と雑誌
売りよし買いやすい
東光社書店
盛岡市紙町　（上ノ橋ギワ）

祝入学
眼は知識の窓
大切な眼は正確なメガネで
最新式精密機械完備
メガネのデパート
水晶堂眼鏡店
電話盛岡　六三二　六八八　一四七〇